

岩手県陸前高田市における間伐を行うことの現代的意義（平成22年度資源環境経済学講座修士論文要旨）

| | |
|-----|---|
| 著者 | 佐々木 龍馬 |
| 雑誌名 | 農業経済研究報告 |
| 巻 | 42 |
| ページ | 79-79 |
| 発行年 | 2011-02 |
| URL | http://hdl.handle.net/10097/50556 |

岩手県陸前高田市における間伐を行うことの現代的意義

フィールド社会技術学分野 佐々木 龍 馬

The Possibility of Regenerating Foresty by Thinning Out a Forest Positively, and by Circulating Sustainable Wood –A Case Study in Kesen Area,Iwate Prefecture–

【目的】

林業を行っていく上で、そして森林や国土を保全していく上で森林管理は重要であり、その過程の一つに間伐がある。しかし、木材価格の低迷、そして間伐のコスト等の問題により、間伐を含めた森林の管理が十分でないケースが多数存在する。長年、政策としても対応されてきた間伐が適切に、そして積極的に実行されるためには、時代の流れに沿ってどのような取り組みがなされるべきかを、間伐材が市場に出荷される前後に分けて考える。

【材料と方法】

岩手県陸前高田市における、戦後以降の拡大造林から、およそ 30 年後の間伐適齢期、そして現在に至るまでの林業経営、森林管理、木材販売について、さらにその中から、間伐実行の経緯、間伐材の流通について、主に森林組合所有のデータ、およびセンサスのデータを用いて分析を行った。

【結果と考察】

拡大造林、そして昭和 56 年からの間伐促進総合対策事業と同時に、陸前高田市においても間伐の促進、作業道の開設の動きが進んだ。また地域内には、積極的に間伐材を利用しようと設立された事業体が存在する。しかし、間伐材利用の製品需要が伸び悩み、次第に伐採したまま森林に放置するケースが目立つようになって来た。さらには間伐を行わない森林も増加してきた。主たる原因として、間伐材が売れずにコストの補填が出来ないことが挙げられる。これは住宅着工数減少といった木材自体への需要の低下、または木材からプラスチックといったように、材料の代替が進行したことが背景にある。また近年、地球温暖化等の環境問題が言われる中で、木質バイオマスの利用により二酸化炭素等の温室効果ガスの排出を抑制しようとする取り組みが生じつつある。とりわけ、製品化するには品質が劣る間伐材を利用するところが多い。しかし同時に、間伐した森林、あるいは新たに形成される森林を管理し、次期の森林を適切に形成していくというサイクルを作らないと、カーボンニュートラルにはならない。

このため、消費者に対して間伐材を利用した製品とその品質について、より認識を高めてもらい、購入、利用をしてもらうのが望ましいが、その際、間伐材利用の製品に対しては認証マークをつける、あるいは購入に際して補助金を出すといった形で、国や自治体が積極的に関与していくことが、消費者と林業との距離を縮め、また林業を行う者の収入を確保することにつながり、林業を再生させる一歩となり得ると考えられる。